

第4章 消防団の消防活動状況

■ 消防団の組織（平成7年1月1日現在）

西宮市消防団の組織は、1本部33分団で消防団長以下732名（条例定数755名）、消防ポンプ自動車38台を保有している。

保有車両等

指 令 車	消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ
1台	38台	12台

消防団員数

団 長	副 団 長	理 事	分 団 長	副分団長	部 長	班 長	団 員
1人	7人	1人	33人	37人	38人	111人	504人

■ 活動状況

市内33消防分団の団員は地震の発生後、自発的に分団詰所に参集、担当区域内の消火、救助及び負傷者などの搬送に従事した。

17日午後からは、消防局指揮本部の部隊編成の下、消防職・団員合同で消火、救助負傷者搬送などの各種活動を実施した。

■ 給水活動

救出活動が終了した20日からは、消防団車両に熊本県や滋賀県から調達した簡易タンク（500～1,000ℓ）を積載し、市内の断水箇所をきめ細かく回って給水活動を2月20日までの1ヶ月間実施した。

消防団の活動状況

	出 動 車 両	出 動 人 員
消 火 活 動	104台	647人
救 助 活 動	314台	3,328人
負 傷 者 等 搬 送	81人	(負傷者 38人) (死者 43人)
給 水 活 動	567台	2,191人

■ 消防団員の被災状況

地震発生時、自宅において家屋の全壊により2名が死亡し、倒壊した家屋の下敷きとなり負傷した2名は重症のため入院を要した。

■ 消防団車庫などの被害

市内の消防団車庫及び詰所38ヶ所のうち、11ヶ所が建物傾斜、外壁モルタル剝離などの被害を受けた。

団車庫の被害状況

分 団 名	被 害 状 況
上 大 市 分 団	建物傾斜、屋根瓦崩落などにより全壊した。
高 木 分 団	詰所基礎剝離、屋根瓦及び外壁崩落などにより全壊した。
建 石 分 団	鉄骨基礎3ヶ所剝離、外壁崩落などにより全壊した。
夙 川 分 団	建物傾斜、外壁クラックなどにより半壊した。
鳴 尾 北 分 団	屋根瓦崩落、外壁クラックなどにより半壊した。
段 上 分 団	外壁クラック、詰所入口サッシ破損による一部損壊。
門 戸 分 団	屋根瓦崩落
越 木 岩 分 団	詰所入口土間盛上、内壁崩落、外壁クラック、サッシ破損
船 坂 分 団	棟瓦崩落、外壁・内壁亀裂、石垣及び土間亀裂
芦 原 分 団	シャッター破損
用 海 分 団	車庫西側部分沈下、土間亀裂



消火作業中の消防団員（甲子園口北町）



給水活動を実施する消防団

■ 各分団長の行動

団長以下33分団の団員は、通信連絡が途絶され消火栓が破壊し、瓦礫と化した街で、迫り来る炎と助けを求める声の中、火災の鎮圧と人命救助を絶対使命とし、自ら被災しながらも死力を尽くして闘い、延焼を最小限に留め、倒壊家屋から多数の人命を救い出し、市民は勿論、全国の消防関係者から地域防災の手本として高い評価を得た。

過酷で長かった17日の震災直後に素早く行動を起こした各分団長の行動を紹介する。（3月30日開催の分団長会議での記録）

● 浜脇分団長

阪神西宮駅周辺の倒壊家屋現場で救出活動を実施。救出用器材が不足し、消防局にジャッキを借りに行くが、全て使用されて無く、救出に困難を極めたが、11人を救出した。その後、8時半に発生した戸崎町の火災に出動。引き続き、上甲子園の消火活動を実施した。

● 用海分団長

すぐさま、与古道町の倒壊家屋現場に出動し、3人を救出。その後、消防局隊と合同で市庭町の救出業務に従事し、14時頃女性1人を救出。16時頃、戸田町の火災を覚知し出動。鎮圧後も合同で産所町の倒壊家屋現場で18時頃に男性1人を救出した。

● 安井分団長

直後に発生した神明町の火災現場に出動。消火作業とともに付近の倒壊家屋現場で15人を救出し、焼死体2体を収容した。鎮圧後、青木町の火災に出動。周辺で10人を救出し、消防局隊と現場交替し、当日は午前1時過ぎまで残火処理を実施した。

● 建石分団長

車庫前にガレキが散在し、車両を出動させるのに苦労した。弓場町と郷免町で火災が3件発生していた。弓場町6番の消火活動に当たるとともに、周辺の倒壊家屋現場から18人を救出した。団員がほぼ集まったのは昼頃。弓場町の火災鎮圧後、郷免町の火災の残火処理を実施した。

● 芦原分団長

6時過ぎに分団車庫へ行くと、既に団員が3名ほど集まっていた。神明町の火災現場に向かおうとしたが、倒壊家屋からの救出要請者が殺到し、各団員の手を引き哀願するため消防車をそのままにし、西福町他で10人を救出した。各現場には参集した団員も加わった。その後詰所に戻り、他の団員が出動していた青木町の火災現場に向かった。

● **大社分団長**

広田町の火煙発見。参集途上の消防局員と協力し、マンションの防火水槽から取水し放水。民家が密集し、火勢も強いため、水槽水では不足すると考え、東川からも取水し、ある程度鎮圧してから現場西に移動し、積載していたPP土俵20袋で川の水を堰き止め放水した。途中、燃料がなくなったため灯油40リットルで代用、ガソリンスタンドで軽油の購入を命じたが、開いておらず遠方まで捜すのに苦慮した。

● **夙川分団長**

直ぐに詰所に行くと全員が集まっていた。車両は車庫から出し、火災に備えた。2班に分け、阪急の南北地区で救出活動を実施した。雲井町、殿山町他で13人を救出した。倒壊家屋からの救出は困難を極め、付近住民よりチェーンを借用し棟木を切り救出した。南越木岩町では消防局隊と合同で1人救出した。

● **越木岩分団長**

朝から区域内で救出活動に従事。樋之池、南越木岩、豊楽、菊谷、西平町他で付近住民の協力を得て、また民間の重機を借用し13人を救出した。その後、消防局と合同で相生町で3人を救出した。

● **段上分団長**

農家が密集した地域であり、団員20人中16人の家が全壊した。団員の隣近所の救出活動に忙殺されたため、消防車は出ていない。段上町1丁目から6丁目までの倒壊家屋からの救出は15人を数えた。道路損壊や通行障害が激しく、救出活動は全て徒歩で実施した。夜は報徳学園の消火活動に従事。段上小学校のプールを使用した。

● **門戸分団長**

7時過ぎに門戸岡田町で発生した火災に16人で出動。参集途上の消防局員と合流し、消火栓が断水のため、四十谷川を倒壊家屋の瓦礫で堰き止め、1戸のみで延焼を阻止した。消火活動中、丸橋町の救出要請が入り、半数をそちらに向かわせた。昼過ぎに下村副団長から上大市地区の被害が甚大で転戦するよう連絡が入り、現場へ出動し5人を救出した。

● **上ヶ原分団長**

団員が各地区に点在しているため、招集後に各地区の被害状況が即座に収集できた。付近住民の応援を求め救出活動を実施した。関西学院大学の下宿生が多い地域であり、上ヶ原三～十番町一帯で、学生15人、住民6人を救出した。

● **下大市分団長**

すぐさま団員を招集し、担当区域内の下大市東、西町、甲武台住宅、門前町一帯で救出活動を実施した。2階建文化住宅の1階部分が軒並み潰れていたり、「く」の字に折れており、救出活動は困難を極めたが15人を救出した。

● **神呪分団長**

分団車庫のシャッターが壊れていた。区域内の生き埋め現場は数多く、倒壊家屋の下から助けを求める声があるところから救出活動を実施し、神呪、上甲東園、松籟荘1番で6人を救出し、5人の生存救出に成功したが、1遺体は家族に確認してもらった。

● **上大市分団長**

新幹線の架橋が落下し、全壊家屋が多く生き埋めは40人程発生した。1分団のみで地区内の救出を対応したため、活動は困難を極めたが、上大市2丁目を中心に10人を救出した。救出道具がなく、金テコ、ロープで行った。消防局や団本部に連絡し、応援を求めたかったが、連絡手段がなかった。

● **今津分団長**

6時過ぎには全員が集合していた。周辺現場の救出活動に団員5人が出動し、他は詰所で火災に備えた。今津水波、久寿川、二葉町の4箇所生き埋め情報があり出動し、8人の救出に成功した。その後、上甲子園の火災現場に出動した。

● **津門分団長**

団員に連絡し、6時30分頃集合した。浜田町の生き埋め現場に出動し、曙町の2ヶ所で6人救出した。残りの団員は津門周辺のパトロールを実施。その後、津門仁辺町の消火活動に出動。引き続き消防局より上ヶ原方面の救出要請があったので出動した。救出後、再び津門仁辺町の再燃火災に出動した。

● **高木分団長**

分団長自身が生き埋めとなった。すぐに招集のサイレンは鳴っていた。1時間後に救出され詰所に赴いたところ、団員は全員救出活動のため出動していた。農家の梁は大きいため、救出は困難で詰所に置いていたジャッキを活用した。高木東、西町で14人救出した。7時頃に詰所西側で火災が発生したが、事前にポンプ車は農業用水に部署していた為慌てなかったが、約400メートルのホース延長に苦勞した。

● **瓦木分団長**

6時頃、倒壊家屋の下敷きとなった重傷の女児を消防車で病院搬送。その後、大屋町、瓦林、中島町の倒壊家屋から救出活動を実施。困難を極めたが8人を救出した。救出後、甲子園口北町の火災に出動し鎮圧後、無線傍受機で高木西町の火災を覚知し、再び出動した。

● **甲子園口分団長**

JR駅前のホーキビルが倒壊。6時頃ホーキビルに向かったが途中で救助要請があり、なかなかホーキビルに到着できなかった。ビルの北側から出火したため、救出にかかっているものはその場に残し、団員5人で消火に向かった。

駅前の防火水槽を使用。応援部隊要請のため、団員一人を消防署に向かわせたが、応援部隊はすぐには来なかった。その後消防局より可搬ポンプを積載した軽四輪車が到着し、新堀川に部署したが液状化のため、途中焼き付き自隊が新堀川に変更し放水を続け、夜中の3時過ぎに鎮火した。救出は、甲子園口、二見町一帯で12人救出した。

● **上甲子園分団長**

近くの文化住宅が倒壊し3人ほどで救出活動を実施。近隣の文化住宅でも要請があり7人を救出した。また倒壊した文化住宅より出火し22時まで消火活動に従事。断水の为上甲子園中学校横の川に水利部署したが、水が少ないため車載のブルーシートで水を堰き止めて放水した。夜中に再燃したため再出動した。

● **鳴尾中分団長**

鳴尾市場南の民家が3軒倒壊したため、半数の団員で救出に当たった。2人は生存救出したが3人は死亡していた。その後、鳴尾町5丁目の文化住宅等で救出活動を実施した。これらの救出には、東、西、小曾根分団から応援してもらい合計7人を救出した。救出後、消防局の指示により市民グラウンドにヘリ輸送された血清を取りに出動した。

● **鳴尾西分団長**

すぐに八車副団長の自宅に行き、鳴尾市場南の救出現場に応援出動。その後国道43号線南の倒壊現場に出動し、消防局隊等と合同で救出活動を実施し3人を救出した。その後消防局に行くよう指示を受け赴き、午後からは広田町他2件の救出現場に出動し2班に分かれ活動し男性と老人夫婦を救出した。ここでも消防局隊と行動を共にし、死亡収容者は病院に搬送し検死を受け、中央体育館の遺体安置所まで搬送した。

● **鳴尾北分団長**

甲子園五番町で火災が発生したため、詰所に行き招集をかけた。車庫のシャッターがなかなか開かなかったため、シャッターを壊して車を出した。現場では消火栓が使えないため、防火水槽に部署し放水した。火勢は屋根を突き抜け最盛期であった。2線放水で防御したが鎮圧まで時間がかかった。その後花園町の救出現場で消防局隊と共に活動していたが五番町の火災が再燃したため反転した。

● **小松分団長**

鳴尾北の応援要請があり、五番町の火災に出動した。消火活動中に上甲子園3丁目の火災が発生し、消防局隊の指示で転戦した。火災鎮圧後、鳴尾消防署長の指示で花園町の救出現場に出動し消防局隊と共に活動した。

● **小曾根分団長**

6時50分に鳴尾市場南の救出現場に出動し1人救助。その後国道43号線南の

倒壊現場に出動し救助活動。その後、上甲子園3丁目の火災現場に出動し、次に甲子園口北町のホーキビル現場へ、その後甲子園口3丁目の救出現場に出動し1人救出した。救出後、清水町、二見町の倒壊家屋現場に出動した。

● **鳴尾東分団長**

区域内は液状化が激しいため、道路の損壊状況調査を実施。終了時に鳴尾市場南の救出要請が入り出動。当現場での救出者を車両で兵庫医大病院まで搬送し、引き続き国道43号線南の倒壊現場の救出活動の応援。その後の指示を団長に仰いだところ、消防局に集結するよう指示があったため局に到着。そこで甲子園口3丁目へ出動指示を受け出動し、小曾根分団と合同で作業実施。ここでも、当現場の救出者を兵庫医大病院まで搬送した。

● **名来分団長**

区域内を巡回し被害状況調査実施。塀の倒壊や屋根瓦の落下があった。負傷者はいなかったため団員の招集はしなかったが、昼頃に団長から消防局に集結するよう指示があり出動した。局の指示により浜脇方面に出動。消防局隊と行動を共にし2人生存救出。3人死亡救出。その後苦楽園方面の倒壊現場に出動した。

● **下山口分団長**

区域内を巡回し被害状況調査を実施。塀の倒壊や灯籠の倒壊があった。団員の招集はかけなかったが、昼頃に指示があり消防局に出動した。指示により安井町の倒壊家屋現場に出動し、現場付近にいた自衛隊と合同で作業を実施。梁の下敷きとなっており困難を極めたが1人生存救出した。その後自衛隊と共に投光器を使用し付近の搜索活動を実施した。

● **上山口分団長**

すぐさま、三役に連絡し6時30分に27人の団員招集を完了した。車両で区域内を巡回し、狭い道は3～4人が組となり調査を実施した。通行障害物件を除去し8時に一旦招集を解き幹部9人が詰所に残り、山口分署と連絡を取り合い他団員は自宅待機とした。地域内の民生委員と連絡を取り独り暮らしの老人宅を訪問し無事を確認した。指示により消防局に集結し救出現場への出動要請を受けたが地理不案内のため消防局員1人が同乗し弓場町、郷免町で2人、安井町で2人それぞれ救出した。

● **中野分団長**

6時10分に詰所に出動した。団員は自主的に16人が参集した。午後に消防局に出動し指示により江上町、青木町の倒壊家屋現場に出動した。地理不案内のため消防局員1人が同乗し江上町で老女を生存救出。青木町で2人死亡救出した。



- **船坂分団長**

6時過ぎに団員2人と共に区域内を巡回し救出要請があり消防局隊と合同で活動したが救出済みを確認した。とりあえず給水作業準備にかかり、婦人会に炊き出しを指示した。本部の指示により消防局に行く途上、安井町Nマンションで住民から救出要請を受け上山口分団金仙寺班と共に活動実施。建設協会2社の協力を受け2人を生存救出した。後1人残っているとの情報を得るも重機でないと無理であり、要請すると共に救出活動を継続したが重機が調達できず、0時30分関係者と調整の上、到着した消防局隊と交代した。

- **生瀬分団長**

詰所備え付けのサイレンが使用できないため車両のサイレンで招集した。ガス漏れが発生していたため火気使用についての広報をしながら区域内を巡回した。生瀬東町で生き埋め発生との報があり出動し、9時過ぎに4人を救出した。その作業中、宝生ヶ丘でも生き埋めがあるとの情報を得たので、団員の半分を回して1人を救出した。その後、消防局に向かい千歳町の倒壊家屋現場に出動し6箇所の現場で6人を救出した。

- **名塩分団長**

神社の灯笼が倒れ下敷きになった人がいるとの情報があり救出のため出動した。既に死亡していたが収容後地域内の巡回を実施。午後から本部の要請により消防局に参集し局員1人が同乗し夙川方面で救出活動を実施。救出した女性をポンプ車で病院搬送した。